

第 11 回日本血栓止血学会学術標準化委員会(SSC)シンポジウム

SSC Symposium 2017

日 程	2017年1月21日(土)9:30～18:50 ※9:00より受付を開始いたします。
会 場	野村コンファレンスプラザ日本橋 (東京都中央区日本橋室町 2-4-3 日本橋室町野村ビル(YUITO)6F 東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅 A9 出口直結 徒歩 1 分) http://www.nomura-nihonbashi.com/conference/
世話人	岡本好司(北九州市立八幡病院 外科/消化器・肝臓病センター)
参加費	会 員 3,000 円 非会員 4,000 円 学 生 2,000 円(学生証を提示) ※参加費は抄録代を含む

プログラム

学術標準化委員会シンポジウム

午前の部(10:30～13:00)

1. 凝固系/抗凝固療法部会

座長: 和田英夫(三重大学大学院医学系研究科臨床検査医学)

川杉和夫(帝京大学医学部内科学講座)

I. テーマ「抗凝固療法の実際と問題点」

I-1. 整形外科領域の VTE 予防の現状

藤田 悟(宝塚第一病院整形外科部)

I-2. VTE の現場から—診断と治療の実際—

保田知生(公益財団法人がん研究会有明病院医療安全管理部・消化器外科)

I-3. 高齢者の抗凝固療法の注意点—ワルファリン, DOAC—

上塚芳郎(東京女子医科大学循環器内科)

II. テーマ「凝固系に関連した最近の話題」

II-1. DOACs の中和薬と諸問題

川杉和夫(帝京大学医学部内科学講座)

II-2. 後天性凝固因子インヒター ～第 VIII, 第 V 因子を中心に～

門平靖子¹⁾, 寺上貴子²⁾, 朝倉英策¹⁾

(金沢大学附属病院 ¹⁾血液内科, ²⁾検査部)

2. 血小板部会

テーマ「血小板減少時の抗血小板療法・抗凝固療法のマネージメント」

座長：横山健次(東海大学医学部附属八王子病院血液腫瘍内科)

羽藤高明(愛媛大学医学部附属病院輸血・細胞治療部)

1. 血小板減少症の病態と診断

富山佳昭(大阪大学医学部附属病院輸血部)

2. 血小板減少と出血傾向

羽藤高明(愛媛大学医学部附属病院輸血・細胞治療部)

3. 冠動脈インターベンションに関する血小板・抗血小板剤に関して

安藤献児(小倉記念病院循環器内科)

4. 血小板低値と脳梗塞後の重篤な出血性合併症また短期・長期予後との関連：Fukuoka Stroke Registry

脇坂義信^{1,2)}, 松尾 龍³⁾, 黒田淳哉¹⁾, 吾郷哲朗¹⁾, 鴨打正浩^{2,3)}, 北園孝成^{1,2)}

(九州大学大学院医学研究院 ¹⁾病態機能内科学, ²⁾附属総合コホートセンター, ³⁾医療経営・管理学)

5. 造血器腫瘍患者に対する抗血小板および抗凝固療法

横山健次(東海大学医学部附属八王子病院血液腫瘍内科)

3. VWD/TMA 部会

テーマ「VWD/TMA の診断と治療の進歩」

第1部 von Willebrand 病(VWD)

座長：松下 正(名古屋大学医学部附属病院輸血部)

1-1. 血流下血栓形成測定装置による von Willebrand 病の機能的診断と治療モニタリング—奈良医大の経験から

野上恵嗣(奈良県立医科大学小児科)

1-2. 標準化した VWF マルチマー解析によって評価した循環器疾患随伴 AVWS の重症度と出血性合併症の関係

堀内久徳¹⁾, 松本雅則²⁾, 小亀浩市³⁾, The AVeC Study Group

(¹⁾東北大学加齢医学研究所, ²⁾奈良県立医科大学輸血部, ³⁾国立循環器病研究センター研究所分子病態部)

1-3. VWD 診療ガイドラインの作成状況

日笠 聡(兵庫医科大学血液内科)

第2部 血栓性微小血管症(TMA)

座長：小亀浩市(国立循環器病研究センター研究所分子病態部)

2-1. 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)診療ガイドの作成状況

松本雅則(奈良県立医科大学輸血部), 厚生労働科研「血液凝固異常症等に関する研究班」TTP サブグループ

2-2. 「非典型溶血性尿毒症症候群診療ガイド 2015」の解説と今後の課題

加藤秀樹¹⁾, 吉田瑤子¹⁾, 藤澤まどか¹⁾, 菅原有佳¹⁾, 宮田敏行²⁾, 南学正臣¹⁾

(¹⁾東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科, ²⁾国立循環器病研究センター脳血管内科)

2-3. 造血幹細胞移植後 TMA の診断と治療について

上田恭典(倉敷中央病院血液内科 血液治療センター 外来化学療法センター)

4. 血友病部会

テーマ「我が国の血友病診療の向上を目指して」

第1部 進化する関節評価法～ADL向上を目指して

座長：竹谷英之(東京大学医科学研究所附属病院関節外科)

1-1. 血友病性関節症の画像評価

植原健二, 木城 智, 仁木久照(聖マリアンナ医科大学整形外科学講座)

1-2. 血友病患者の身体機能評価

稲垣有佐(奈良県立医科大学整形外科学教室)

第2部 より正確な止血機能の測定のために～合成基質導入WGから

座長：窓岩清治(東京都済生会中央病院臨床検査医学科)

福武勝幸(東京医科大学臨床検査医学分野)

2-1. APTT 凝固一段法による凝固因子活性測定の実状と問題点

i. 第VIII因子製剤補充後の回収率に大きな施設間差を認めた血友病Aの一症例

—APTTによる凝固一段法の影響—

金子 誠(山梨大学医学部附属病院輸血細胞治療部)

ii. 第IX因子製剤の活性評価の実状と課題

—凝固一段法による活性測定とAPTTによるモニタリング—

稲葉 浩(東京医科大学臨床検査医学分野)

2-2. 合成基質法測定試薬の性能評価と一段法との相関

鈴木敦夫¹⁾, 篠原 翔²⁾, 新井信夫²⁾, 岸本磨由子³⁾, 兼松 毅³⁾, 鈴木伸明⁴⁾, 松下 正^{3,4)}

(¹⁾名古屋大学医学部附属病院医療技術部臨床検査部門, ²⁾シスメックス株式会社,

³⁾名古屋大学医学部附属病院検査部, ⁴⁾名古屋大学医学部附属病院輸血部)

2-3. 臨床病態を反映する凝固因子活性測定法, ROTEM, 凝固波形解析, トロンビン生成試験

野上恵嗣(奈良県立医科大学小児科)

午後の部

5. DIC 部会 (14:10～16:40)

テーマ「DICの病態・診断・治療を再考する」

座長：岡本好司(北九州市立八幡病院外科/消化器・肝臓病センター)

朝倉英策(金沢大学附属病院高密度無菌治療部)

1. 検査医学的観点から見た DIC 診断のための各種凝固線溶系マーカーの妥当性と重み付けの問題
内場光浩(熊本大学医学部附属病院輸血・細胞治療部)
2. 日本血栓止血学会 DIC 診断基準暫定案の検討
青田卓実¹⁾, 和田英夫²⁾, 山下芳樹¹⁾, 松本剛史³⁾, 大石晃嗣³⁾, 鈴木 圭⁴⁾, 今井 寛⁴⁾,
臼井正信⁵⁾, 伊佐地秀司⁵⁾, 片山直之¹⁾
(¹⁾三重大学医学部血液腫瘍内科, ²⁾三重大学医学部臨床検査医学, ³⁾三重大学医学部附属病院
輸血部, ⁴⁾三重大学医学部附属病院救命センター, ⁵⁾三重大学医学部肝胆膵移植外科)
3. 肝不全症例における DIC 診断
内山俊正(高崎総合医療センター臨床検査科)
4. 敗血症性 DIC の診断・治療開始基準を再考する
—アンチトロンビン製剤の特定使用成績調査の解析から—
江口 豊¹⁾, 池田寿昭²⁾
(¹⁾滋賀医科大学救急集中治療医学講座, 救急科, ²⁾東京医科大学八王子医療センター特定集中
治療部)

座長：関 義信(新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・魚沼基幹病院血液内科)
内山俊正(高崎総合医療センター臨床検査科)

5. 高濃度のアンチトロンビンは血小板機能と凝固機能に影響を及ぼすのか？
(Point of care testing を用いた試み)
三池 徹, 小網博之, 阪本雄一郎(佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター)
6. DIC 診断基準(旧厚生省)には満たないものの抗凝固療法が必要であった凝固異常合併悪性リンパ
腫症例の臨床的特徴
池 成基¹⁾, 池添隆之²⁾
(¹⁾高知大学医学部附属病院血液・呼吸器内科, ²⁾福島県立医科大学血液内科学講座)
7. 敗血症性 DIC に対する遺伝子組み換え AT 製剤の使用状況とその効果
小網博之, 阪本雄一郎, 三池 徹, 井上 聡
(佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター)
8. 敗血症性 DIC に対するトロンボモジュリン製剤の重症度別・原因疾患別の効果
～重症例と腹膜炎に効く！～
矢田憲孝^{1,2)}, 廣田哲也³⁾, 吉本清巳¹⁾, 大野史郎¹⁾, 左近郁絵¹⁾, 巽 恵美子¹⁾, 宮本真紀子¹⁾,
小林正尚¹⁾, 酒井圭慧子¹⁾, 川島浩正¹⁾, 米今 諒¹⁾, 則本和伸²⁾, 西尾健治¹⁾
(¹⁾奈良県立医科大学総合診療科, ²⁾淀川キリスト教病院救急科, ³⁾多根総合病院救急科)

6. HIT 部会(14:10～15:20)

テーマ「Spontaneous HIT syndrome」

座長：前田琢磨(国立循環器病研究センター輸血管理室)

矢富 裕(東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学)

1. ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)は、ヘパリン曝露歴や最近の先行イベント(感染, 手術等)なしに発症し得る—spontaneous HIT syndrome
岡田卓也¹⁾, 宮田茂樹²⁾, 宮下史生³⁾, 前田琢磨²⁾, 豊田一則³⁾
(¹⁾福岡赤十字病院脳神経内科, ²⁾国立循環器病研究センター輸血管理室, ³⁾国立循環器病研究センター脳血管内科)
2. ヘパリン投与に依存しない spontaneous heparin-induced thrombocytopenia (HIT) syndrome 発症メカニズム: 適切な HIT 診断, 治療の鍵として
宮田茂樹(国立循環器病研究センター輸血管理室)
3. 機能的 HIT 抗体検査の基礎検討: spontaneous HIT syndrome のモデルとしての応用の可能性
安本篤史, 矢富 裕(東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学)

7. 血栓溶解部会(14:10 ~ 16:40)

テーマ「血栓溶解の評価法と治療法の標準化を考える」

座長: 窓岩清治(東京都済生会中央病院臨床検査医学科)

竹下享典(名古屋大学医学部附属病院臨床検査医学講座)

1. 高感度 PAI-1 活性測定法の開発と標準化に向けた取り組み
岩城孝行¹⁾, 浦野哲盟²⁾, 梅村和夫¹⁾
(浜松医科大学 ¹⁾薬理学, ²⁾医生理学)
2. 抗線溶因子としての FXIII/13 と自己免疫性出血病 XIII/13 診療ガイドについて
一瀬白帝(山形大学医学部分子病態学講座, 「自己免疫性出血症治療の『均てん化』のための実態調査と『総合的』診療指針の作成」研究班, 日本血栓止血学会 AH13 診療ガイド作成委員会)
3. Massive Transfusion Protocol による重度外傷患者の救命率向上には線溶系の変動が関与する
関根和彦¹⁾, 笹尾健一郎¹⁾, 栗原智宏¹⁾, 菅原洋子¹⁾, 武部元次郎¹⁾, 入野志保¹⁾, 泉 史隆¹⁾, 渋谷崇行²⁾, 並木 淳²⁾, 佐々木淳一²⁾
(¹⁾東京都済生会中央病院救命救急センター, ²⁾慶應義塾大学医学部救急医学教室)
4. 重症外傷患者における凝固線溶異常と新規輸血治療の試み
山本晃士¹⁾, 山口 充²⁾, 井口浩一²⁾, 澤野 誠²⁾, 杉山 聡²⁾, 杉山和宏³⁾, 西村滋子⁴⁾, 藤田 浩⁴⁾
(¹⁾埼玉医科大学総合医療センター輸血部, ²⁾埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター, ³⁾東京都立墨東病院救命救急センター, ⁴⁾東京都立墨東病院輸血科)
5. FDP と D-ダイマーの両測定意義と使い分けについて
朝倉英策(金沢大学附属病院高密度無菌治療部)
6. 血栓性疾患における血栓溶解マーカーの意義
山田典一(三重大学大学院循環器・腎臓内科学)

8. 血栓性素因部会(14:10 ~ 16:40)

テーマ「特発性血栓症(遺伝性血栓性素因による)の診療ガイドライン策定に向けて」

座長: 津田博子(中村学園大学大学院栄養科学研究科)

小嶋哲人(名古屋大学大学院医学系研究科)

1. 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因による)の指定難病認定
津田博子(中村学園大学大学院栄養科学研究科)
2. 遺伝性血栓性素因の検査における現状と問題点
家子正裕¹⁾, 吉田美香²⁾, 内藤澄悦²⁾, 高橋伸彦¹⁾, 津田博子³⁾
(¹⁾北海道医療大学歯学部内科学分野, ²⁾北海道医療大学病院臨床検査部, ³⁾中村学園大学大学院栄養科学研究科)
3. 新生児・乳児期・小児期の特発性血栓症の診療
野上恵嗣, 萩原建一(奈良県立医科大学小児科)
4. 産科領域における遺伝性血栓性素因の診療
根木玲子¹⁾, 宮田敏行²⁾
(¹⁾国立循環器病研究センター臨床遺伝相談室, 周産期婦人科併任, ²⁾国立循環器病研究センター脳血管内科)
5. 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因による)の診断基準と重症度分類
小嶋哲人(名古屋大学大学院医学系研究科)
6. 総合討論

9. 抗リン脂質抗体部会(15:30～16:40)

テーマ「多彩な抗リン脂質抗体の標準化から実用へ」

座長：保田晋助(北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野)

1. LA 部門

希釈ラッセル蛇毒時間の Normalized Ratio 算出に使用する正常血漿に関する検討

村田直子¹⁾, 石川義徳¹⁾, 三橋建次¹⁾, 柴田健治¹⁾, 可知真奈美²⁾, 山崎 哲³⁾

(¹⁾株式会社ビー・エム・エル第一検査部, ²⁾アイ・エル・ジャパン株式会社, ³⁾聖マリアンナ医科大学病院臨床検査部)

2. ELISA 部門

日本における抗リン脂質抗体 ELISA の標準化に向けて —第3報—

本木由香里¹⁾, 吉田美香²⁾, 關谷暁子³⁾, 原 和冴¹⁾, 家子正裕⁴⁾, 森下英理子³⁾, 野島順三¹⁾

(¹⁾山口大学大学院医学系研究科基礎検査学講座, ²⁾北海道医療大学病院臨床検査部, ³⁾金沢大学大学院医薬保健学総合研究科病態検査学, ⁴⁾北海道医療大学歯学部内科学分野)

3. APS 部門

新たなヒトモノクローナル抗カルジオリピン IgG 抗体について：新たな抗カルジオリピン抗体サブセットの解析

奥 健志, 金塚雄作, 中村浩之, 大村一将, 藤枝雄一郎, 加藤 将, オルガアメンゲアル, 保田晋助, 渥美達也

(北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野)

モーニングセミナー(9:30～10:20)

1. テーマ「担がん患者における静脈血栓塞栓症」

座長：左近賢人(大阪府立成人病センター)

1. 『がん静脈血栓塞栓症 —Current Status and Future Directions—』

演者：中村真潮(三重大学大学院循環器腎臓内科学, 村瀬病院肺塞栓・静脈血栓センター)

2. 『大腸がん患者における VTE 診療の実態』

演者：池田正孝(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター下部消化管外科)

共催：第一三共株式会社

2. 「敗血症患者における線溶抑制状態評価の重要性」

座長：久志本成樹(東北大学大学院医学系研究科救急医学分野)

演者：石倉宏恭(福岡大学医学部救命救急医学講座)

共催：積水メディカル株式会社

3. 「インヒビター保有先天性血友病患者の観血的治療時の pd-FVIIa/FX の使用方法」

座長：松下 正(名古屋大学医学部附属病院輸血部)

演者：竹谷英之(東京大学医科学研究所附属病院関節外科)

共催：一般財団法人化学及血清療法研究所

4. 「血友病のトータルケア」

座長：鈴木隆史(東京医科大学臨床検査医学科)

演者：白山理恵(産業医科大学医学部小児科)

共催：バクスアルタ株式会社

ランチオンセミナー

13:10～14:00

1. 「敗血症の病態を形づくるもの」

座長：朝倉英策(金沢大学附属病院高密度無菌治療部)

演者：伊藤隆史(鹿児島大学病院救命救急センター)

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科システム血栓制御学(兼務)

共催：一般社団法人日本血液製剤機構

13:10～14:00

2. 「わが国における血友病 B 治療の現状と今後の方向性」

座長：嶋 緑倫(奈良県立医科大学小児科学教室)

演者：瀧 正志(聖マリアンナ医科大学小児科学)

共催：CSL パーリング株式会社

13:10～13:50

3. 「造血器腫瘍や造血細胞移植後に合併する DIC の病態と診断・治療～SF の有用性について」

座長：川杉和夫(帝京大学医学部内科学講座)

演者：池添隆之(福島県立医科大学血液内科学講座)

共催：株式会社 LSI メディエンス

13：10～14：00

4. 「血友病 A を考える—血液凝固第 VIII 因子の基礎から臨床まで—」

座長：松下 正(名古屋大学医学部附属病院輸血部)

演者：野上恵嗣(奈良県立医科大学小児科学教室)

共催：バイエル薬品株式会社

イブニングセミナー

16：50～18：50

1. テーマ「ガイドラインを紐解く」

座長：射場敏明(順天堂大学医学部救急・災害医学)

和田英夫(三重大学医学部臨床検査医学)

1. 『急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドラインと臨床で経験する合併症対策—DICを中心に—』

演者：岡本好司(北九州市立八幡病院外科／消化器・肝臓病センター)

2. 『敗血症診療ガイドライン 2016 の概要とポイント』

演者：真弓俊彦(産業医科大学医学部救急医学講座)

共催：旭化成ファーマ株式会社

16：50～17：40

2. 「軽症および中等症血友病患者の現状と課題

Current status and problem in patients with mild and moderate hemophilia」

座長：福武勝幸(東京医科大学臨床検査医学分野)

演者：長江千愛(聖マリアンナ医科大学小児科)

共催：バイオジェン・ジャパン株式会社

16：50～17：40

3. 「今だからこそ考える ～NOAC と従来抗凝固薬の本質的違いとは～」

座長：家子正裕(北海道医療大学歯学部内科)

演者：三田村秀雄(国家公務員共済組合連合会立川病院)

共催：ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社／ファイザー株式会社

17：50～18：40

4. 「血友病 B 診療からみえてくるもの —東京医科大学病院の経験を踏まえて—」

座長：天野景裕(東京医科大学臨床検査医学分野)

演者：近澤悠志(東京医科大学臨床検査医学分野)

共催：ファイザー株式会社